

共に 「学び、思いやり、鍛え」 歩む

八代中学校「校長室だより」No.14

校訓

自主 誠実 工夫

令和7年1月27日(月)

挨拶について考える

3学期から、正門と裏門に、3年生の生徒会役員に替わって新生徒会役員が分かれて立ち、挨拶運動をしています。ある朝、その中の一人に「八中生の挨拶の様子はどうですか？」と尋ねると、「まあまあ」と答えました。私が正門を入ってきた3年生の男子生徒に「おはようございます。」と挨拶すると、「おはようございます。」とさわやかな挨拶が返ってきました。「よい挨拶です。すばらしい。」と私が言いました。「最近、勉強頑張っている？」「頑張っていますよ。」などと、彼と談笑しながら玄関前を歩いていると、向こうから別の生徒が歩いてきました。私が「おはようございます。」と挨拶をしたら、その生徒からは挨拶が聞こえてきませんでした。その様子を見ていた3年生の彼は、「今の生徒は挨拶しませんでした。」「何か、感じ悪いです。」「挨拶したのに、挨拶が返ってこなかったら、気持ちが暗くなります。」と言いました。挨拶が返ってこなかったということで、気持ちが暗くなるのは、何とも残念で、寂しい気持ちになりました。何か気分が沈むことがあったのだろうか、心配になったりもしました。



また、12月に行った八代中学校の学校評価では、「八代中の生徒の挨拶は爽やかである。」の評価が下がっています。先日行われた学校評価委員会でも、地域の方から、「八中生の挨拶が良くない。」「学校の近くでは挨拶をよくしているようだが、地域では挨拶をしない生徒がいる。」など、八中生の挨拶が良くない状況にあるという意見が出されました。

そもそも、挨拶は何のためにするのでしょうか。私は、「あなたのおかげで、今日も一日、元気に頑張っていて、成長することができます。ありがとうございます。」という相手に対する敬意と感謝の気持ちを伝えるためにするのだと思います。そういう気持ちを表現するものですから、挨拶は、明るく、元気よく、さわやかにしたいものです。挨拶をされたら、明るく、元気よく、さわやかな挨拶を返したいものです。そうすることで、互いによい印象を持ち、その後の関係性が充実し、人間関係もスムーズになり、居心地のよい場所になります。一方、挨拶をしないということは、相手を尊重していなかったり、自分自身を成長させようとしなかったりすることになります。



「相手も自分も大切にしていない」ということにもなります。これでは、居心地のよい場所にはなりません。

挨拶をした人も、された人も気持ちよくなるような挨拶を心掛けたいものです。そのためには、言葉だけでなく心も相手に届き、気持ちが伝わるように、互いに挨拶を交わし合いたいものです。明るく居心地のよい地域にするために、八中生の皆さん、ぜひ、この気持ちで挨拶をしていきましょう。

(文責 河野 靖)